第21回土木構造物検討会 議事録

1. 開催日時：平成２７年２月５日（木）　１４：００～１５：３５

2. 開催場所：（一社）日本電気協会　４階　D 会議室

3. 出席者（順不同，敬称略）

出席委員：谷主査（防災科学技術研究所），山崎副主査（首都大学東京），原口幹事（関西電力），衣笠（東京工業大学），大友（電力中央研究所），鈴木（原子力安全推進協会），氏家（北海道電力），加藤（東北電力），河村（中部電力），中村（北陸電力），若松（電源開発）　（計 11 名）

代理出席：中野（日本原子力発電・入谷），末広（東京電力・高尾），今林（九州電力・生貞）　（計 3 名）

欠席委員：松山（電力中央研究所），高橋（四国電力），清水（中国電力）　（計 3 名）

常時参加者：秦，天野（中部電力），中村（関西電力）　（計 3 名）

事務局：井上（日本電気協会）　（計 1 名）

４．配付資料

資料 No.21-1　第 20 回土木構造物検討会議事録（案）
資料 No.21-2　原子力規格委員会　耐震設計分科会　土木構造物検討会委員名簿
資料 No.21-3　JEAC/JEAG4601 改定スケジュール案（土木構造物検討会）
資料No.21-4　原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601-201X 改定案に対する原子力規格委員会コメント及び回答案
資料 No.21-5　JEAG4601 第 3 章基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価
資料 No.21-6　H27 年度　各分野の規格策定活動（案）
資料 No.21-7　原子力規格委員会　耐震設計分科会　H27 年度活動計画（案）
資料 No.21-8　H27 年度　土木構造物検討会　活動計画（案）
資料 No.21-9　日本原子力学会「断層の活動性と工学的なリスク評価」調査専門委員会に関する資料

5. 議事

(1) 代理出席者の承認及び会議定足数の確認

事務局から，代理出席者 3 名の紹介を行い，規約に従って主査の承認を得た。また出席者は現時点で 14 名で，会議開催条件の「委員総数の 2／3 以上の出席(12 名以上)」を満たしていることを確認した。

(2)主査の選任

谷主査の任期 2 年が経過したため，主査の選任手続きを行った。主査候補者の推薦を募ったところ，谷委員に引き続き主査をお願いしたいとの推薦が出され，異論なく谷委員が主査に互選された。ま

た，谷主査より，山崎副主査，原口幹事が指名され承諾された。

(3) 前回議事録の確認

事務局より，資料 No.21－1 に基づき第 20 回土木構造物検討会議事録(案)が紹介され，正式な議事録にすることが挙手により承認された。

(4) 検討会委員の変更について

事務局より，資料 No.21-2 に基づき，検討会委員の変更について説明し出席委員に確認した。

（次回耐震設計分科会により承認）

・変更：高尾誠（東京電力）　→　末広俊夫（東京電力）

(5) JEAC/JEAG4601 改定スケジュール案について

原口幹事より，資料 No.21-3 に基づき JEAC/JEAG4601 改定スケジュール案について説明された。

(6) 原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601-201X 改定案に対する原子力規格委員会コメント及び回答案について

中村常時参加者より，資料 No.21-4,5 に基づき JEAG4601 改定案に対する原子力規格委員会コメント及び回答案について説明された。

２月６日に耐震設計分科会の代表幹事会があり，意見対応案の説明をするので，他の検討会の回答でも意見者に口頭説明を行う必要があるようであれば，口頭説明することを提案する。

主な質疑は下記の通り。

・越塚委員の２番目の意見の回答に土木学会の津波評価技術(2002)の例を記載しているが，現在見直し改定中であることを記載しておいてはどうか。

→記載を検討する。

・1)の回答では波源モデルの例等は一切示さないと記載しているが，2)の回答では内閣府の津波波源モデルを例として引用していると記載されているので，表現を工夫すること。

→表現を検討する。

・資料 No.21-5 の P35 の参考資料 3.13 の石丸ほかの事例が，今年度中に投稿できなくなったので削除する。

→参考資料の事例なので報告事項として処理する。

(7) 平成 27 年度　土木構造物検討会　活動計画(案)について

原口幹事より，資料 No.21-6～8 に基づき平成 27 年度　土木構造物検討会　活動計画（案）について説明された。

来年度の計画については，若干の修正を加えて分科会に上程することとした。

主な質疑は下記の通り。

・資料 No.21-8 の２．（１）２番目の・で JEAG4601 第４章基準津波策定の改定の検討が必要とある

が，JEAC4629 耐津波設計技術規程も考えられるので，どちらにするかスケジュールを考慮した議論が必要と考える。

→JEAG4601 第 4 章と JEAC4629 耐津波設計技術規程の位置関係を，将来的な事も考え津波検討会と議論することとする。

・JEAG4601 第 4 章基準津波策定の内容は日本土木学会で評価技術の検討をされているが，まだ技術規程に記載できる内容ではないので，JEAG のままで良いと考える。今後 JEAC4629 に取り込めるようにするためには，津波検討会とも十分な議論が必要と考える。

→今,津波検討会でも活動計画を検討しているので,津波検討会の幹事と調整したい。また２．（１）に津波検討会と情報交換し，方針決定後に計画を具体化する旨の記載を追記する。

・スケジュールの２．（１）津波評価技術の項で 27 年度に改定したばかりなのに，28 年度末に「改定」と記載されているが，2 年後では改定できるような知見がまだないと思うが改定を考えるのか。定期改定は 5 年毎であるが，この時期に改定を計画する理由を説明してほしい。

→津波評価と断層変位の知見が出てくればこの時期に改定をしようと考えていた。改定は無理なようなので記載を変更する。

・（３）の日本原子力学会の断層の活動性の他に，日本土木学会の断層変位小委員会の活動のまとめの報告書が 7 月に出るのでそれも記載してはどうか。

→活動計画の 7 月に追記する。

(8) 日本原子力学会「断層の活動性と工学的なリスク評価」調査専門委員会に関する資料について

原口幹事より，資料 No. 21-9 に基づき日本原子力学会「断層の活動性と工学的なリスク評価」調査専門委員会に関する資料について説明・報告された。

6. その他

(1) 事務局よりの連絡事項

・第 54 回原子力規格委員会が 3 月 27 日に開催される。

・第 2 回原子力規格委員会シンポジウムを 6 月 4 日に予定している。

(2) 次回検討会の開催予定

次回の検討会は十分な検討事項が出そろった頃に，開催日を調整することとした。

以　上